



鎮臺日誌

西垣文庫
文庫 10
7335



持文庫10
7335

鎮臺日誌第一

自六月朔日至同日



○六月朔日所布告書

今般多野領房由奥か致す所より湯殿に於て此の二日別
所城の於て大座間招魂祭に 作事 祭諸藩隊長司合
士登帳拜禮に 作事

六月

○同日諸道我死し者招魂合祭於大座間修行其
式如左

其日の平旦祭主祝部乃諸司等先出殿後取等として
諸席と定之簀薦を敷くむ辰の刻先枝を修む畢て介漆
靈床に神璽を居神の少枝をさし夜の神籬を造る造り

西垣文庫

訖也。祭主座を立て、靈床の前より向ひ、微音より招魂の祝詞をのぶ。招魂の儀は、後取節を打て、兩段。大總督宮次より公卿諸僚方進で、殿の北方より上段より列坐し、のぶ。神事總裁、二の間、北の端より着し、祭式掛の人々並書記、二の間、北方より座し、祭主介添に向ひて、南方より座し、各藩の隊長司令士等、三の間、郡集と樂人、二の間、入側より座し、其餘下參謀軍監等之人々、南北かゝり、別として列座せし座定より、後祝部一人玉串とすして介添より渡り、介添轉り取て、直より靈床よりむらひ奉幣を捧畢て、樂人樂を起し、祝部等入側より頌立して、供物を轉進し、奉幣の儀のこゝより捧畢て、祝部等二の間の入側より列座し、樂人樂を止む。總裁令旨と捧ちて

祭主より渡り、給祭主進て、令旨を拜戴し、直より進て、靈床の前より立、高聲より令旨を宣ふの儀畢て、令旨を傍れ、臺上より居、本座より着し、畢て、大總督宮御座と立たし、靈床の前より向ひ、再拜拍手し、たまふ。次より三條左大将以下公卿方順次より席を立て、再拜し、たまふ。畢て、各藩の隊長司令士等、二の間の間より進て、靈床を拜し、又大總督宮を拜し、衆拜し、畢て、本座より居し、大總督宮公卿方より退入し、たまふ。總裁令旨より、本座よりあを祝部等座を立て、前のごとく、順立し、樂人より樂を起し、供物と徹を添へ、と献じ、る儀のこゝより徹し、畢れ、樂人樂を止む。後取節を打て、兩段、祭主介添立て、退入し、樂人亦立て、退入し、儀式畢て、後改りて、各藩隊長並司令士を列座せ

イ久神酒乾魚の供物と賜ふ祝部後取之輩此儀を掌る
畢て各藩人退出は祭主より大靈床の前よりわかし微音を送
靈の祝詞を述る此儀畢て總裁退出し祭式掛の人自餘
諸司とくく退散し然して後祝部考より退出し

御祭文之寫

懸卷毛恐支令旨乎以宣
天皇我大命也此戸宣久鶏我啼吾孀り國尔不奉仕不禮慶
喜我罪予問止波也宣賜此大總督並尔道々乃軍乃總督尔任志
賜此日月乃大御旗乎降志賜將士乎依志賜倍隨留

皇御軍倭文手纏身毛柵不知勇美健嶺山往武州生屍止荒山乃嶮岨
坂毛駒乃瓜岩根元具久美海行水付屍止八重浪乃逆卷難大
船尔真梶繁貫進美亦進鞆梓弓向布者无久武藏野乃原乃
吹風尔靡我如久其魁首慶喜波兼尔恐美畏此罪尔大叙礼江下
乃大城尔入道不知醜乃奴乃五月蠅成騷競大聖乃乱留如
東乃國諸道此處乃隈彼處乃岳尔美集此尚皇御軍尔
害此奉止源故具形手聞食豆更尔御軍乎班遣志彼乃山乃曾岐
此河乃瀬尔追拂討知窘豆速尔功成持志亦道々乃御軍乃中尔命過留
人等有罪聞食豆悔賜此和備給此宣賜尔恐支兵士等乃身毛
柵不知伊由志美仕奉志依豆如此大破留業波成志得志物止歡此
勇美御座々都々今將士等乃命過留事乎所思食菓古倍楠乃

宇曾我國乃為尔仕奉之勞并備思保之歎賜悲賜
御音哭志願宣又宣恐支臣等乃如此身乎捨勞支仕
奉留事朝夕夜盡止无歎賜辛美痛美御座依伊
加泥其魂乃往方乎後輕心毛安穩思比安息慰米賜比
治米賜年為此殿内乎便乃灵床止祝定神籬拍祭志備奉留
物波青海原住物波鱈乃廣物鱈乃大野乃原尔生留物波
菜辛菜毛乃和物毛乃荒物尔至瀛如横山雜取備倍此乃
千代田乃片山尔生立留五百枝榮木乎折取明和幣照和幣
乎取付宇頭乃太玉串乎持添豆備賜布大御幣帛乎足
幣帛乃豐幣帛止請今日乃此御行事乃床尔招奉留
兵士乃幸御魂奇御魂天翔里國翔里

天皇我御代常磐尔堅磐尔守比幸比奉仕留臣等乎始
此乃大城尔集比候頼御軍乃内尔表无久異无久平
安氣彌勤尔勤米彌猛尔猛與止米宣給布令旨乎宣留

○六月四日所沙汰書

有馬次郎
由良侍從

今般 朝臣被 仰付為御禮上京可執事
當分下總國真國知縣事被 仰付々々事
鍋嶋道太郎

小笠唯八

奥州白川口為軍監致出張ノ事

薩州兵隊

因少云隊

右來九十一日乘船して奥州出張ニ 作付ノ事

佐倉藩より啓書

去月十四日所傳ノ事下上體同本更津田ニ賊徒出沒民
心之賑一ハハ相續守在所佐倉表より同日頃人数差
お望古一日夜為て佐倉出張ノ人数と登産村を合併
乘船して同日ニ曉本更津、着船して須瀬崎廻り
より下船して進上上陸して官軍盡く所以同所より進上

且敵地ニ稀ニ探索ノ事農民と集り防戦ノ事尚能事下
領ノ口々大小砲攻撃ノ事應砲由々町家ノ者大荷物
亦兩片分粮粮致存仰分致火ノ儀見合一日進入家別探索
為付左在廿二日朝四時迄其儀一訪と勢希一各中其儀
共道氏集致存仰既而之探索ノ事大小砲之兵器械等
別儀之通見致存仰且格致存仰ノ者四人生捕時傳示
内之人ニ元江守等名高者時根下竹渡節と相各宗賊徒
與一暴行致一割去月十八日曉佐倉崎ニ警来発砲或ハ
既至致存焼拂ノ旨及白状ハ切捨ル跡三人ノ儀ハ子
細由之者ハ其儀見一甚且坐之儀本更津津原在
近傍探索仰ハ其儀從潜伏ノ様子ハ其儀見也之儀

部下人数多し、進入程、双方探察、此在り、方在所表より、
了知、以て、所居、了り、以て、

六月四日

堀田相模守家来

野村強右衛門

○六月五日御沙汰書

筑州藩兵隊

佐貫表下急来、由張云、作分上事

○六日

肥後藩兵隊
福田 隊

柏木村系、思、以、賊、元、氏、集、之、額、分、另、以、張、打、北、以、張、云、
作分上事

忍藩兵隊

長州系隊、以、隨、從、被、作分、上、事、云、云、免、以、本、出、張、以、
各藩、以、合、結、以、勉、勵、以、云、云、所、以、終、上、事、

○六月七日

柳川藩

本、七、十、一、日、出、立、常、州、鉦、文、介、乘、船、云、云、平、瀧、以、出、張、云、
作分上事

橋本中將
大原前侍從

鎮臺輔被 免候事

西四辻大吏

岩倉大吏

白川口總督願之通被 免候事

但當不可為大監察使三條左大將之附屬ト事

岩倉八千九

白川口副總督願之通被 免候事

官版 所用

芝云為町

和泉屋市兵衛

印書物所

鎮臺日誌一終

鎮臺日誌第二

自六月七日至同月十三日

○六月七日御布告書

今春 朝政御一新之御場合正月十五日 御元服之御

大禮被為行御仁恤一 聖慮ヲ以 朝敵ヲ除クノ外大赦

被 仰出候變於關東者如何ノ次第ニ有之候哉今

施行不致候ニ付今度改テ被 仰出正月十五日以前之

罪人 朝敵其餘大逆無道ヲ除クノ外一切被差赦候

奈速ニ施行可旨 大總督宮 御沙汰候事

六月

大垣藩届書

五月廿一日九時過采女正人數休候隊為巡邏仙臺街道泉田宿
逆襲越候處左ノ山手ヨリ賊發砲ニ及ヒ付當手ヨリモ発砲山
手ノ方ニ追々進撃ノ處賊敗走小田川宿左ノ山手追討セリ時
頃人數引揚リ

同日廿五日薩長藩並敵藩斥候隊仙臺街道巡邏之處小田川
宿先ニ化地藏堂山上ヨリ賊及砲發リ付石三藩ヨリ同様進撃
大田川宿追討ハ賊散乱致シハツ以前人數引揚リ最敵
藩手負左之通御座候

銃隊伍長

三宅 敏太郎

同日廿六日固場仙臺口湯本口五時過賊徒襲來仙臺口者
仙臺會津兩道ヨリ山ヲ越平押ニ進來リ大小砲頻ニ打出シ
中候當手ヨリモ同様烈鋪進撃賊兵ヲ圍ミト處賊軍大
崩ト相成敗走仕ル且又湯本口固場正面並左右ノ山手ヨリ賊
発砲頻ニ打懸候ニ付薩藩ト合兵大小砲烈鋪打立相進
候處三方ノ賊兵追々米村ノ方ニ散乱仕ルニ付追討仕セリ時
過人數引揚リ候ニ付藩手負左之通御座候

銃隊長

小出 五平次

砲隊長

林 十太夫

銃隊

渡邊 定次郎

砲隊

宮崎 儀次郎

井深 松之助

同日分隊人數兼石白坂宿に出張之處五時過賊襲來

宿ノ西ノ方ヨリ類ニ撃掛候ニ付黒羽藩ト合兵烈輔相戦賊山手之
方立散乱仕候依而追討仕九ツ時過人數引揚リ候在敵藩死
傷左之通御座候

死 銃隊長 酒井元之丞 日 松岡惣兵衛
日 瀬古與作

傷 銃隊 高橋弥忠太日 加納治兵衛

日 河井圖書日 黒川奎之進

日 長谷川惣吉日 久保田萬之助

同下七日八ツ半時過尚又賊襲来仙臺口者會津街道右ノ山
手ヨリ賊進撃候ニ付薩ト合兵及戦争候處賊敗走大谷地村向

追討仕候湯本口者固場石ノ山手ヨリ賊打出申候自薩土藩ト
合兵戦争ニ及ニ候處是亦賊敗走大谷地村左ノ山手追討仕
兩手共黄昏頃人數引揚リ候在敵藩手負左之通御座候

銃隊 今尾保次

六月朔日九ツ時頃長藩斥候隊為巡邏仙臺街道泉田宿邊
ヨリ罷越候處同所山中ヨリ賊及砲發戦争相成候由援兵之儀
彼藩ヨリ申越早速薩長並敵藩人數繰出三烈戦之處何
分彼者胸壁ニ據リ相防ギ殊ニ黄昏ニ相成候間双方人數
引揚リト在敵藩死傷左之通御座候

死 銃隊 渋谷重太郎
日 市川齋吉

有之通御届奉申上候以上

六月

日
日
多代廣太郎
鹿野徳次郎
田采女正家来

戸田三弥

○六月十日御沙汰書

正親町中将

奥羽追討為總督出張被

仰付候事

鷲尾侍從

大總督府參謀被 仰付奥羽追討白川口出張可有之
被 仰付候事

佐土原兵隊

奥羽表江出張被 仰付候事

今般奥州口追討付其藩在府之者為嚮導可差
出首被 仰出候事

長州兵隊

白川口為應援出張被

仰付候事

○同十二日 御沙汰書

阿州兵隊

白川口為應 援出張二夜

仰付候事

稻田隊

同上

但阿州兵隊ト可為合併候事

土少 淺原書

本月十二日平明白川表諸藩持口賊軍襲來敵藩持場金
正寺山飯澤山湯本道等ニテ戰鬪午時頃賊軍潰走諸手追擊

賊之宿營村落所々放火仕候敵藩死傷之人負左之通

戰死 田中煌之進

同日 黒岩兼之助

重創歸營 楠瀬六衛
後死

手負 北川源五郎

木林平醇助

岡林虎之助

淺田悦七

田中茂作

日比元作家来

一討取二十四級

一生捕二人

但櫻街道會津街道等他藩相混シト場所并叢林中ニ斃レ有之
分等ニ調不申候

一 旗二本
一 鎗四本

一 小銃二十八挺

一 大小刀二十九口

右之通御座候以上

六月

土州

板垣退助

薩州藩届書

今朝五字頃大垣藩兵之持場仙臺街道之方砲聲相聞候處六字
頃應援之兵差出呉ト様右藩ヨリ申來候ニ付敵藩番隊繰出
候中追々賊徒引退候様子ニ付八字頃ヨリ追撃會津街

道之内白川ヨリ一里程ニテ大ヤチ村ト云處ニ賊徒屯集ニ付左
右ヨリ挾討ニ攻寄セ終ニ撃破リ陣屋用具焼拂候處本街
道方之賊營未墜味方半隊位ニ而合戦最中之由聞シ故
又右場所ニ攻寄セ砲臺打破賊不殘追々散シ陳營放火右
兩所ニテ討取候者凡三四十位石川街道口者敵藩持場所仙
臺會津二本松等之賊徒多人數間近ク寄來リ此方ヨリ半
隊ツニ陣左右ヨリ廻リテ追拂セ支ヨリ進撃ニケ所ノ賊ヲ
討破リ會津隊長井口源吾以下討取候者四十餘人生捕一人
彈藥亦分捕一字頃不殘凱陣原街道口モ敵藩持場之
處十二字頃ヨリ遙之向ニ敵三百斗追々相見ヘ且湯本街
道ニ堅之土州勢モ余程進撃之様子ニ付此方ヨリモ數手ヲ出

賊不殘追散討取少々御座候に敵藩戦死手負左之通

戦死 永野伸之丞 長束一郎

池田次郎左衛門 濱川彦兵衛

三原周助 黒田運次

手負 小出謙齋 川寄一介

町田郷左門 種子田左門

岸良弥左門 佐土原新外

谷山彦兵衛 林太郎兵衛

榊山覺之進 永井喜一郎

財部傳五左門 川久保十二

人足 己之吉

右御届申上候以上

六月十二日

薩州

島津式部

相良治部

大垣藩届書

昨十二日朝五字白川城四方口々江賊徒襲来致三采女正人
敷持場仙臺口并會津口右兩道且山々ヨリ頻ニ撃懸り
候ニ付烈鋪防戦進撃致三候處追々賊徒山々江散乱仙
臺街道者薩藩敵藩會津街道者薩土藩下合隊追

擊仕二字頃人數引揚申候不手負左之通

銃隊 香村造酒允 川崎志保左門

安藤玄太郎 三輪隆太郎

岡崎末太郎 廣瀬七四郎

兼而白坂宿五分隊 銃卒 桑原重吉 支卒一人

之人数同日八字頃黒川口ヨリ賊徒進来大小砲烈鋪切懸候

付黒羽藩ト合兵同様防戦進撃仕候處賊山手ノ方ニ散乱

即追撃仕十二字頃人數引揚申候不手負左之通御座候

銃隊 大野代次

右者諸藩ヨリ御座可申候得共先ニ敵藩ヨリモ不取敢御座

奉申上候以上

六月十三日

戸田采女正家来

戸田三弥

黒羽藩届書

今朝卯中刻頃西原川口ヨリ賊兵五十人程白坂驛固場高襲

来及砲発尚追々賊兵相加リ凡二百人余ニ双方砲戦依之味方三

ヨリ進撃午刻ニ至遂ニ撃破リ八町余追討仕大垣并當家三

賊一人討取且味方手負死人等一切無御座候此段不取敢御

届奉申上候以上

先達而御届申上候去五月廿六日奥州白坂驛戦争之節

討取分捕討死手負等取調候處左之通

一 討取十一人

右者見届候所ニ御座ハ且手負世人余有之死者右之外ニ有
之由追々生捕之者申立候事

分捕

一臼砲一門 一小銃六挺

但此外略之

味方討死手負 討死

二番隊
三番隊
重創病院ニ死

小室新吉

後藤勇助

手負

藪知次郎 堀口玉之助
澤部善藏 澤部 渡邊幸助
久米勇哉

右之通御座候此段御届申上候以上

六月十二日

大関泰次郎家来

五月廿三左衛門

○同十三日御沙汰書

徳川龜之助

今般於其方杖持難行届者共姓名支々取調來ル七日限
差出候様可致旨 御沙汰候事

六月

大澤采女助

本祿如舊下賜候事

鎮臺日誌第三

自六月十四日至同月十九日

○六月十四日御沙汰書

德川龜之助

其方家來在府在邑共謹慎之者並脫走之輩姓名支々
取調當六月限差出候様可致旨 御沙汰候事

六月

同十五日四條少將京師ヨリ着城之事

○同十六日御沙汰書

大田原銚丸

其藩過日已來數度之戰、城下其外為兵火致燒失
士民共二雨露ヲ侵シ巡邏防戰之勞人馬之繼立^{ツキタラ}至追
諸民之苦役不一形不愍^ニ被 思食候依而今般金
五千兩下賜候事

六月

大平八郎

白川復城之節、棚倉海道間道筋案内且白坂宿人馬
繼立^{ツキタラ}無滯致周施^シ前後骨折奇特之至^ニ候依而手銃一挺下
賜候事

六月

○ 同十六日到着^ニ三位ヨリ文通

此度長藩藤村六平ト申者差登候間去四月以來仙
臺之條々糸細御聞取願入候實^ニ何レヨリモ通路梗塞
誠苦心仕候萬事御聞取何卒秋田野代へ蒸氣船御廻^シ
之様御都合奉希入度猶可然奉待御沙汰仍早々如此
御座候別紙入高覽候也

六月

別紙

一 四月十日羽沙庄内へ發向可致指揮様 總督府ヨリ御

達ニ相成此段御請申上候

一 六月十二日仙臺表出立

一 二十七日羽州上之山城下へ着

一 同十九日天童城下へ着

一 同十九日新庄城下へ着此日酉半刻薩長兩藩兵隊
清川口へ操出

一 同廿四日印刺ヨリ戦争相始未半刻兵隊繰引

一 閏四月四日庄内勢天童城下へ押寄放火防禦不行届之
詮進有之候ニ付同七日己刻柳澤繰出ニ賊軍追々引
去リ石筑州美山形人數ニ合兵相成終ニ本道寺迄追退
ケ同十四日惣軍新庄表へ歸陣之事

一 同廿二日ヨリ仙臺國境嚴重ニ相固ノ總而通行差
止候事

一 同廿三日矢島秋田勢并生駒勢増田邊ニ而朝四ツ時戦
争百宅へ操引イタシ候事

一 同廿四日上秋人數凡三百人餘山形ニテ宿陣イタシ廿六日
上之山へ繰上候趣ニ仙臺ニ合兵之風聞ニ御座候

一 同廿九日新庄表ヲ祭陣

一 五月三日仙臺米沢之兵新庄へ押出候事

一 同月六日院内ヨリ庄内人數少ク押出ニ探索ホ致シ居ル事
一 同十一日森岡宿へ着

一 同十六日秋田領内大館大館へ着此所ニテ廿七日追帯陣

一 同廿二日大館祭陣同日能代へ着仕ト此所ニテ滞在仕居候

○同十七日御沙汰書

軍監被 免候事

三雲為一郎

御雇ヲ以當今上野岩鼻知縣事被

大音龍太郎

仰付候事

○同十八日御沙汰書

芦野出張

館林藩

其藩過日來守都宮為應援致出張尚芦野邊
守衛候處近日白川可有進擊候間當分之内芦野邊

可為守衛旨 御沙汰候事

六月

水野出羽守家来

吉田喜左三門

右之者事 兼右御預之林昌之介其外賊徒沼津ヲ脱走之
節隊長ヲモ下勤卑怯之所置武士道ヲ失候段不届
之至依之追放可申付旨被 仰出候事

六月

同十九日穗波三位西四辻大支岩倉八千九發城歸京之事

○同廿七日御沙汰書

上杉源四郎

自今 朝臣ニ被 仰付本禄如舊下賜候事

○同日御布告書

近來 大總督宮様御内或ハ官軍杯ト稱シ甲間体之者
市中之高賣并途中往來之人ヲ苦メ産業之妨ニ相成
候趣相聞不都合之事ニ候自然右様之儀有之而者縱令
宮之御印有之候共無用捨直ニ召捕刑典ヲ以處置可
致候間諸藩未々之者ニ到迫心得違旨之様急度可
達者也

六月

同日御沙汰書

松村忠四郎

今般被

召出知縣事被

仰付候事

同日御布告書

自今閱板書物之儀都而草稿ヲ以學校官へ差出改之
上彫刺可致若内々板行イタシ候者於有之者吟味之
上此度 御沙汰可有之候事
右之趣不洩様可觸知者也

六月

同日結城藩ヨリ届書

三月中脱藩之奸賊共彰義隊ヲ率ヒ同月廿五日在
所結城表ハ押寄乱入及炮發候ニ付一同盡力遂防戰
候節討死手負等別紙之通御座候忝其節歎願

中一折柄二付右討死手負其外人數書等七丈之口差出
置候得共混雜中之事ニテ未夕表立御屈不申上候
二付自然埋没之体ニ相成居不愍之至奉存候全勤
王之誓願ニ相斃候儀ニ外延引ニ及ニ候得共弔魂之為
此段申上置候以上

水野攝守詳家来

鈴木與八郎
根本忠司

三月廿五日防戦之節討死手

討死

小場兵八郎
吉田市兵衛
柳田良藏
三宅兎太郎

深疵

篠宮權右衛門
小林忠助
野本榮左衛門
岡本紋右衛門
水野富太郎
太田辰吉
吉川甚内
柳田欽之助
近藤左司馬
赤野間安助
宮内三男
皆川完兵衛
小谷野逸平
醍醐鷲太郎
天海作左衛門
松尾柳助

古之通所存以上

六月十九日

○同十九日御沙汰書

去三月上武野三州之農民蜂起イタシ不容易形勢付各藩持
場ヲ定鎮撫可致候様東山道總督ヨリ申達則及鎮靜候處此
度改而為軍監無當分知縣事大音龍太郎被遣候奈上毛一國
御領民改而總而知縣事之指揮タルベク候云非常之變動有之
節者同人ヨリ各藩へ出兵可申達候間此段相心得是近鎮撫
之村々へモ此旨可申達候事

六月

同廿二日德川龜之助ヨリ願書

此度領知下賜候ニ付而者家来共之内暇申出候者モ多分
可有之候得者農商又者浪人之名義ニ而何レノ御場所ニ
任居致候而モ不苦又者農商人別入無差支様仕度可
然其筋々へ被 仰渡被下候様奉願候以上

六月

後見

德川龜之助

松平確堂

齊民

附紙

依願農商ト相成候者ハ以來其處之府縣ヨリ
支配可致事

浪人名義之儀者一切不相成候事

○同廿四日御沙汰書

四條少將

大總督府參謀被仰付候事

同日薩藩ヨリ届書

一昨十七日関田ヨリ賊兵押寄候付九面村辺相回候弊藩人数
ト九ツ時ヨリ互ニ發砲及戦争大村佐土原人数モ追々繰出致攻
撃候処八ツ時分賊兵致敗走候付新町迄之間一里半程モ致追討
セツ時分兵隊引揚申候左候而弊藩手ハ討留候賊兵拾人御
座候外ニ賊兵一人弊藩木野玄意生捕之候モ弊藩手負
戦死之儀者別紙之通御座候此段御届申上候以

都城戦兵

瀬戸山源兵衛

久保田少作

財部左十郎

高松庄兵衛

旗手役

戦死

手負

右之通御座候

六月十九日

島津左衛門



尾
八
終